発行日：2024年（令和６年）12月15日　発行元：帝京平成大学スポーツ局メディア部

来年こそ2部へ！

TEIKYO HEISEI Sports Journal Vol.8

入れ替え戦１回戦12回裏無死２塁、中島（颯）のピッチャー前犠牲バントを国士舘大学が３塁へ送球ミス。その間に２走・花塚（右）が一挙にホームイン。２対２の同点とする（大山航平撮影）

リーグ戦４季ぶり優勝
入れ替え戦はリベンジならず

東都大学野球秋季リーグ。２部昇格を目指す本学は、４季ぶり２度目の３部優勝を果たし、11月16日から明治神宮野球場で行われた２部最下位校との入れ替え戦に駒を進めた。入れ替え戦の相手は２年前と同じ国士舘大。１回戦は延長十二回までもつれ込んだ末にチャンスをものにできず引き分け、２回戦では1-2で惜敗。３回戦でも0-4と敗れ、３部残留が決まった。悲願達成は持ち越しとなった。（入れ替え戦の詳報は２ページ）

秋季リーグは、初戦の成蹊大戦では３回戦までもつれ込んだものの、２勝１敗で幸先の良い白星スタートを切り、その後も順調に勝ち点を積み重ねた。最終戦では３位となった学習院大と対戦し、１回戦は8-0で快勝。２回戦では3-5で惜敗したものの、優勝がかかった３回戦では六回表に打線が爆発。13-4で大勝した。最終成績は、10勝２敗、勝ち点5だった。

（野﨑浩洋）

入れ替え戦１回戦５回裏無死、前本が先制のソロホームランを放ちベンチ前で祝福を受ける（長島優希撮影）

Baseball

チアダンス部と吹奏楽部が一体感演出

チアダンス部と吹奏楽部による応援の様子（大山航平撮影）

チアダンス部の松本彩佳主将（薬学部3年）は、「神宮球場で応援をすることができて、貴重な経験でした。応援する側ですが、すごくパワーを貰い、応援の力を実感する3日間でした。チアダンス部としては今後応援のバリエーションを増やし、よりパワーや元気を届けられるように頑張っていきたいです。3日間ありがとうございました！」と語り、吹奏楽部主将の小森義裕（経営学科3年）は「今回3日間、応援に参加させて頂きました。残念ながら試合の方は振るわない結果となってしまいましたが「これまで関わることのなかった方々との繋がり」「部として、また個人としての経験」という面では大きな手応えを感じました。今回得られたことを来年度、春季リーグの応援でも活かせたらと思っております。

最後に、今回ご一緒させて頂いた「硬式野球部様、チアダンス部 Blue Topaz様、メディア部様、ありがとうございました。」と語った。

（大山航平）

両部の応援、野球部に届く

本大会の応援にはチアダンス部と吹奏楽部が駆けつけ、大学スポーツの試合らしい一体感をスタンドにもたらした。チアダンス部は2度目、吹奏楽部は初めての神宮。一緒に応援するのは初となる。攻撃の順となると吹奏楽部が威勢の良い楽曲を高らかに奏で、チアの振りに合わせてスタンドは盛り上がりを見せた。

入れ替え戦 詳報

▼1回戦　（11月16日）

五回裏に5番前本のレフトへのソロホームランで先制したが、六回表に同点とされた。最終回の延長十二回に逆転を許したが、その裏、8番伊藤（新）が内野安打で出塁し、相手投手の暴投で無死二塁とした。その後、9番中島（颯）の犠打をピッチャーが送球エラーし、代走の花塚大空が二塁から一気にホームを陥れ、同点に。その後も、一死三塁と勝ち越す絶好のチャンスだったが、スクイズ失敗の併殺で、引き分けに終わった。

▼2回戦　（11月17日）

1点を追う本学は六回、8番木戸脇、9番中島（颯）が相次いでセンターへヒットを放つなど、一死一、三塁とすると、2番阿部が一塁線にスクイズを決め同点とした。しかし、直後の六回裏に追加点を許し、これが決勝点となって惜敗した。

▼3回戦　（11月18日）

四回表、国士舘大に先制点を取られると、五回表に2点の追加点、九回表にも1点を許し、0－4で敗れ、3部残留が決まった。

（大山航平）

先発の林投手（長島優希撮影）

1回戦	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	H	E
国士舘大	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	2	6	1
帝京平成大	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	2	10	1

2回戦	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	H	E
帝京平成大	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	6	0
国士舘大	1	0	0	0	0	1	0	0	×	2	5	0

3回戦	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	H	E
国士舘大	0	0	0	1	2	0	0	0	1	4	7	0
帝京平成大	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	2

3部ベストナイン

投手	**林 侑之助**	**（帝京平成大）**	**7票**	**[初]**
捕手	飯髙 皓大	（順天堂大）	5票	[2]
一塁手	山口 絢平	（学習院大）	満票	[初]
二塁手	大内 成晃	（成蹊大）	8票	[初]
三塁手	新井 圭吾	（学習院大）	満票	[2]
遊撃手	篁　哲郎	（上智大）	7票	[初]
外野手	岡島 諒	（順天堂大）	満票	[2]
	佐伯 颯太	**（帝京平成大）**		
	菊池 祐汰	（大正大）		
指名打者	上原 光陽	（学習院大）		

表彰選手

最高殊勲選手	**林 侑之介（帝京平成大）**	**5票**	**[初]**
最優秀投手	**林 侑之介（帝京平成大）**	**10票**	**[初]**
最優秀防御率	**林 侑之介（帝京平成大）**	**防御率**	**1.06**
首位打者	山口 絢平（学習院大）	打率	0.396
敢闘賞	寺山 一稀（成蹊大）		

3部打撃成績トップ10

順位	選手名	大学名	打数	安打	本塁	打点	盗塁
1	山口	学習院大	48	19	0	9	0
2	飯髙	順天堂大	41	15	0	2	0
3	岡島	順天堂大	42	15	2	8	2
4	菊池	大正大	34	12	1	8	1
5	大内	成蹊大	45	15	0	5	1
6	内藤	成蹊大	36	12	0	4	0
7	野川	大正大	33	11	0	2	1
8	上原	学習院大	40	13	0	4	2
9	木村	成蹊大	44	14	0	5	0
10	**佐伯**	**帝京平成大**	**42**	**13**	**1**	**9**	**1**

秋季リーグ入れ替え戦結果

1部
降格 東農大（1部6位）0勝　× 昇格 東洋大（2部1位）2勝

2部
残留 国士舘大（2部6位）2勝1分　× 残留 帝京平成大（3部1位）0勝1分

3部
残留 順大（3部6位）2勝　× 残留 一橋大（4部1位）0勝

原監督コメント

1、2年生中心の若いチームで挑んだ入れ替え戦でしたが、その中でも要所で四年生がしっかり引っ張ってくれたと思います。佐伯主将を中心にして中島颯人、山本、宇都宮の野手陣が自分の役割を果たし、エース林、中継ぎ野本、伊藤翔音が格上の相手打線に気持ちで向かっていってくれました。下級生も四年生との最後の戦いに気持ちでプレーしてくれていたと思います。3試合の接戦をした事は、この若いチームにとって素晴らしい経験になったと思いますし、自分達に足らないものに気付けた戦いでした。この経験は来年のリーグ戦、入れ替え戦に必ず活かせるものになると思います。皆さんの温かい声援、誠にありがとうございました。

佐伯主将コメント

大学4年間では、リーグの入れ替わりや監督の変動もあり、沢山の経験をすることができました。東都移籍時には、2季連続で優勝し2年次では神宮での入れ替え戦に出場しました。しかし、僕達の代も主力として出させてもらった3年次、4年春では3季連続で優勝を逃してしまい、苦しい時期が続きました。その中でも、2部昇格という目標を常に掲げて練習に取り組んできました。その結果今秋で3部優勝することができ、後輩達を神宮に連れて行くという、僕達の代で決めた目標を達成することができました。今秋での2部昇格を決めることができませんでしたが、神宮を経験した後輩達に2部昇格の夢を託したいと思います。

Soccer women's

関東大学女子サッカーリーグ 5位でインカレ出場へ

第38回関東大学女子サッカーリーグ1部後期は11月3日、全日程を終えた。前期からの通算戦績は10勝6敗6分けで、5位に終わった。1部は、本学のほか東洋大、山梨学院大、早稲田大、神奈川大、日本体育大、東京国際大、日本大、十文字学園女子大、筑波大、国士舘大、国際武道大の計12校で構成。前期、後期の2シーズンを戦い、上位8チームは、年末年始の全日本大学選手権に出場する。

本学は最終戦となった国士舘大戦で、FW北川のシュートで先制、さらにMF江崎のシュート、後半のアディショナルタイムでのMF鈴木のシュートで、3-0の完勝でリーグを終えた。

リーグ戦を振り返って越路主将（健康医療スポーツ学部4年）は、「今年監督が変わったこともあって、最初はかみ合わず、前期は引分けが多くて勝ち点を上手く積み上げられなかったが、試合を重ねるにつれてチームにまとまりが見え始め、後期は連勝でき、勝ち点数を重ねることができた。全日本大学選手権進出を決め、前期と後期で成長できたと思う。」と語った。

日大戦の87分、ヘディングで決勝点となるゴールを決めた加藤（久保田妃菜撮影）

八鍬監督は「着任したばかりの頃は、選手たちと意思疎通やサッカー観などがかみ合うまでに時間がかかった。リーグ全体を振り返って「自分たちで判断できるようになった」「相手によってサッカーを変えていく」という点で大きく成長したと思う。これからインカレまでにもっと成長させて、より自分たちを育てるサッカーにしていき、選手たちが力を発揮できる、組織だったプレーを展開できる準備をしていきたいと思います。」と抱負を語った。（上原蓮）

Basketball

関東大学バスケットボールリーグ3部 6位

第100回関東大学バスケットボール3部リーグは11月3日、全日程を終了した。本学は、2巡目終盤で立て続けに5敗を喫し、最終成績はリーグ6位に終わった。

3部リーグは8月26日に開幕した。本学のほか、関東学院大、東京成徳大、玉川大、慶應大、國學院大、明治学院大、国際武道大、東京経済大、学習院大、杏林大、朝鮮大学校の計12チームが、2部昇格を目指して2回戦総当たり方式で勝ち点を競った。

男子バスケ部小林龍起主将（人文社会学部4年）はリーグ戦を終えて、「リーグ順位6位と悔しい結果で終わってしまったが、自分たちらしさを出し切ることが出来た」と語った。（上原蓮）

朝鮮大学戦第4クォーターで得点を決める川俣（野﨑浩洋撮影）

Cheer Dance

チアダンス部 笑顔で社会貢献 地域と連携

本学チアダンス部は、9月21日に開催された「RUN伴+中野2024」に参加した。このイベントは、全国的な認知症に対する啓蒙活動であり中野区内のオレンジカフェ（認知症カフェ）などを経由して区役所まで襷をつなぐ。区にあるオレンジカフェの関係者らが中心となり、認知症の当事者、家族、支援をしている人たちが参加している。「認知症になっても住み慣れた地域」。そんな社会を作ろうというのがメッセージで、本学も看護学科などが地域連携の一環として関わってきた。今回初めて参加したチアダンス部は、中野区役所前でゴールしてくる人たちを華やかな応援で迎えたほか、区役所内に設置されたステージで魅力のあるパフォーマンスを披露した。

部員たちはイベント終了後、「ゴールに戻ってきた人に『お疲れ様です』という気持ちを込めて出迎えをしました」、「沢山の人がいたので一人一人の顔を見ながら笑顔でパフォーマンスすることを心がけました」などと、とそれぞれの想いを述べた。

今後の活動について松本彩佳主将（薬学部3年）は、「強化部になって大会の記録も大事になってくると思うが、元々Blue Topazで地域のイベントにたくさん出ていたので今後も大切にしていきたい」と語った。

このイベントに関わってきた看護学科の益田育子教授は、「本学看護学科では、地域・在宅看護論実習で中野の訪問看護ステーションや、地域包括支援センター等で、お世話になっている。「RUN伴+中野2024」に看護学生が参加することで、認知症の人とその家族と触れ合い、行政、多職種、地域の方々による支援体制を学ぶことができる。認知症カフェ、オレンジカフェで実習をさせていただいているからこそ、ボランティアの枠を出て今まで繋がりが継続している。」と、本学と中野区とのつながりについて話してくれた。（久保田妃菜）

RUN伴＋中野2024でのパフォーマンスの様子（大山航平撮影）

Soccer men's

千葉県大学サッカーリーグ優勝 来季より1部復帰

9月22日に開幕した千葉県大学サッカーリーグ2部後期。本学は、後期第9節で麗澤大と対戦し、8-1の快勝でリーグを終えた。最終戦績は前期から通算で14戦全勝。2部リーグを制し、来季に1部へ復帰する。

同リーグは、東京情報大、麗澤大、千葉大B、国際武道大B、神田外国語大、千葉工業大、江戸川大Bの計8チームで構成され、1部昇格を争った。

リーグを振り返って橋野威監督は、「全勝優勝と得失点差+100を目標にリーグ戦を闘いました。どちらも達成できた要因はチームとして、個人として取り組んだ結果だと思います。1部での戦いは簡単ではありません。やるべき事に集中し、1戦1戦を戦っていきます」と語り、水原主将（健康医療スポーツ学部4年）は、「これからは、今シーズンに出た課題の克服、今までやってきたことの精度を上げ、1部でも戦えるチームにしていきます。来シーズンは厳しい戦いになりますが、後輩たちがやってくれると信じています」と後輩たちに後を託した。（桑田祥吾）

講道館杯全日本柔道体重別女子 田嶋選手 ベスト8

講道館杯女子 70kg 級３回戦、ゴールデンスコアの延長５分 39 秒で横四方固を決める田嶋（大山航平撮影）

4年間の集大成 「いつか大舞台で結果を残す」

柔道の体重別全日本王者を決める講道館杯全日本柔道体重別選手権大会が11月2日、3日に群馬県の高崎アリーナで開催された。本学女子柔道部からは、2日に70kg級田嶋海佳（健康医療スポーツ学部4年）、78kg級佐藤こよみ（健康医療スポーツ学部2年）の2選手が出場。

田嶋は、2回戦を不戦勝、3回戦では、ゴールデンスコアの延長5分39秒、横四方固の技ありで勝利した。4回戦では、指導3つを受け、反則負けに終わった。

敗者復活戦1回戦では、延長戦にもつれ込んだが、小外刈りを受け、敗れた。

4年間の集大成となる試合を終えて、田嶋は「講道館杯はこれまで1回戦敗退ばかりでしたが、3度目にしてやっと脱出することができました。表彰台にはまだまだ手も足も出ないと素直に感じた反面、自分でももっとできるのではないかと思えた大会でした」と振り返ったうえで、「強い監督にセコンドについてもらうのも最後になりました。足を一歩出すその一歩にも全部意図があるなど全てを考えて柔道をしなさいと言われ続けて2年。自分の柔道の世界観を一変させてくれました。いつか大きな舞台で結果を残して恩返しがしたいと思います」と語った。

一方、78kg級の佐藤は初戦敗退に終わった。「今回の試合は課題が多く見つかるだけでなく、勝ちたいという気持ちを再確認できた試合となりました。来年は、この舞台で1回でも多く勝ち上がれるように冬の期間でしっかりと課題に向き合って行きたいと思います。」と来年に向けて決意を新たにした。

インカレ 目立った成績挙げられず

体重別の個人戦で学生王座を争う全日本学生柔道体重別選手権大会が10月5日、6日に日本武道館で開催された。男子の部に、66kg級馬郡優（健康医療スポーツ学部2年）、73kg級原田流似（健康医療スポーツ学部3年）、90kg級釘宮陽樹（健康医療スポーツ学部4年）、100kg級伊藤一冴（健康医療スポーツ学部2年）、100kg超級浦宜之（健康医療スポーツ学部4年）の5選手が出場した。

馬郡は初戦1分50秒、小外掛で一本勝ち。2回戦では2分27秒、背負投と小内刈の合わせ技を決められ敗退した。原田、釘宮、伊藤、浦は初戦敗退に終わった。

女子の部には、70kg級田嶋、78kg級佐藤の2選手が出場。地区予選の関東学生選手権で2連覇した田嶋選手は1回戦、3分45秒で大腰を決め勝利。2回戦では1分22秒、内股を決められ敗退した。佐藤選手は1回戦、2分12秒、払巻込で一本勝ちしたが、2回戦では4分25秒、大腰を決められ敗退した。

（若松俊人、中山理深）

全日本学生柔道体重別選手権大会、男子９０kg 級１回戦、明治大学の徳持選手と対戦する釘宮（大山航平撮影）

編集後記

TEIKYO HEISEI Sports Journal vol.8 をお届けします。

春季３位という悔しい結果で終わった硬式野球部が２年ぶりに３部リーグ優勝を果たし、入れ替え戦に臨みました。結果としては１勝もできず、３部残留となってしまいましたが、チアダンス部、吹奏楽部も応援に駆けつけ、とても白熱した試合となりました。

また、女子サッカー部はリーグを５位で通過し昨年に続き、インカレに出場、昨年に２部へ降格となってしまった男子サッカー部は全勝で１部へ復帰など情報が盛りだくさんの本号です。

各部ともリーグ戦が終了し、４年生の大きな背中を追える時間も少なくなっていますが、来季に向け立ち止まる余裕はありません。帝京平成大学のスポーツを担う今後の選手たちに期待です。（代表 大山航平）

本号は、大山航平、上原蓮、長島優希、野崎浩洋、桑田祥吾、若松俊人、久保田妃菜、中山理深が担当しました。